

令和3年12月～令和4年12月

マニフェスト実施状況評価



奄 美 市

市長 安田 壮平

【本評価の考え方】

奄美市長安田壮平が市民の皆様にお示しした８８項目のマニフェストの進捗状況（進み具合）を、５段階で評価しています。また、マニフェストの５つの柱

Ⅰ 新型コロナ対策

Ⅱ 持続可能に「かせぐ」地域づくり

Ⅲ 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくり

Ⅳ 次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり

Ⅴ 市民に身近で頼りになる基盤づくり

ごとに、これまでの取組を「活動の記録など」として文章でまとめています。

【５段階評価の考え方】

本評価作業での評価の考え方は次のとおりです。

- ５ ＝ 公約に掲げた項目が実現し、成果も出ている
- ４ ＝ 公約に掲げた項目への取組が前進している
- ３ ＝ 公約に掲げた項目に対して、従来の取組の拡充・改善や新たな取組への具体的な着手が進められている
- ２ ＝ 公約に掲げた項目に対して制度の検討などが進められている
- Ⅰ ＝ 公約に掲げた項目に対して制度研究などを進める必要がある

奄美市長 安田壮平 マニフェスト進捗評価(第1回 令和5年2月)

大	中	小項目	評価
I 新型コロナウイルス対策			2.8
		【1】 新型コロナから市民のいのちを守ります。	2.0
		【2】 新型コロナから地域を守るため、水際対策を強化します。	2.5
		【3】 新型コロナから地域経済を守ります。	4.0
II 持続可能に「かせぐ」地域づくり			2.9
	㊦観光客一人当り消費額の増加を目指す取り組みの強化		2.8
		【4】 観光・交流の高度化・高付加価値化を推進します。	3.0
		【5】 世界自然遺産の価値を守る公民連携の組織をつくりまします。	4.0
		【6】 観光や特産品の情報発信・広報を強化します。	2.5
		【7】 新しい価値観に基づく観光・交流の多様化を推進します。	3.0
		【8】 観光・交流の経済波及効果拡大を実現します。	2.5
		【9】 ユニバーサル・ツーリズムの展開を進めます。	2.0
		【10】 南西諸島での人の流れや物流を活発化します。	3.0
		【11】 国内・海外からの誘客を促進します。	2.5
	㊦「かせぐ地域」をつくる経済政策		3.0
		【12】 全ての中小企業・個人事業者支援を推進します。	3.0
		【13】 「食と農の総合戦略」をつくり、実行します。	2.3
		【14】 農業支援を継続・強化しつつ、スマート農業を推進します。	2.5
		【15】 新規・若手就農者への支援を強化します。	3.0
		【16】 付加価値の高い農林水産物や加工品の生産支援を行います。	2.5
		【17】 「かせげる漁業」づくりに取り組みます。	3.5
		【18】 ものづくりと販売の支援を推進します。	3.0
		【19】 情報通信産業の企業・仕事・人材誘致を推進します。	3.0
		【20】 地元産業と情報通信産業の提携を強化します。	3.0
		【21】 民間との連携強化により、投資や実証実験を呼び込みます。	4.0
		【22】 主要インフラの整備を進めます。	3.0

【活動の記録など】

I 新型コロナウイルス対策については、医療・保健など関係機関との連携を強めながら感染防止対策を行うとともに、エネルギー・物価高騰も含めた経済の下支えを多種多様に行っていました。

II 持続可能に「かせぐ」地域づくりについては、「世界自然遺産活用公民連携プラットフォーム」を組織して様々な課題解決の議論を進めています。アフターコロナを見据えた観光の高付加価値化は緒に就いたところです。農業など第一次産業のかせぐ力向上に向けても、継続した事業は充実していますが、新たな挑戦を模索中です。情報通信産業など民間との連携強化により、引き続き関係人口を呼び込み、経済波及効果の拡大を目指しています。

大	中	小項目	評価
Ⅲ 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくり			2.9
	◎「ウェルネス」を高める医療・地域福祉の充実		2.5
	【23】	医療との連携を強化し、市民の健康づくりを進めます。	2.0
	【24】	「断らない命と福祉の相談窓口」を設置します。	4.0
	【25】	健康に年を重ねられる地域づくりを進めます。	4.0
	【26】	元気な高齢者の就労づくりを支援します。	2.0
	【27】	高齢者の尊厳をまもる取り組みを強化します。	3.0
	【28】	介護人材などの確保・育成に取り組みます。	2.0
	【29】	重度心身障害者等医療費制度の手続き簡素化を進めます。	2.0
	【30】	障がい者の収入が増す取り組みを目指します。	1.0
	【31】	誰もが住みやすい地域づくりに取り組みます。	2.5
	【32】	公共施設における分煙環境を整備します。	2.0
	◎市民の暮らしと安全をまもる地域防災・防犯の強化		3.0
	【33】	災害に応じた避難所等の増設・充実に取り組みます。	3.0
	【34】	災害情報の伝達を強化します。	3.0
	【35】	民間企業・団体の防災に向けた取り組みを支援します。	3.0
	【36】	ペット同伴可能な避難所の整備を進めます。	3.0
	【37】	防災・減災を進める治山治水事業を進めます。	3.0
	【38】	防犯カメラやドライブレコーダーの設置を進めます。	3.0
	◎世界自然遺産の価値をまもる環境保全の強化		3.2
	【39】	「奄美大島生物多様性地域戦略」を活用・推進します。	2.5
	【40】	生活環境の美化をまもるためのしくみをつくりまします。	4.0
	【41】	環境保全に特化した、地域独自の財源をつくりまします。	3.0

【活動の記録など】

Ⅲ 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくりについては、「つながる相談窓口」の設置によりあらゆる困りごとへの迅速・的確な対応力が充実してきています。介護人材の確保や障がい者の収入増加に向けた取り組みは引き続きの課題です。防災面においては、防災ラジオの導入など多様な取り組みを進めています。環境保全面においても地域や観光客との連携を図りながら、新たな取り組みに挑戦していきます。

大	中	小項目	評価
IV次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり			2.6
	◎「地域の宝」を育む子育て支援の充実		2.4
		【42】 子育て世代への支援を強化します。	4.0
		【43】 待機児童ゼロの維持に取り組みます。	2.0
		【44】 子育て世代の復職・就業支援に取り組みます。	3.0
		【45】 子育て世代への経済的支援に取り組みます。	2.0
		【46】 子どもの貧困対策を強化します。	3.0
		【47】 療育・発達支援を強化します。	1.0
		【48】 学童保育不足の改善に取り組みます。	2.0
	◎「次世代の地域の担い手」を育む教育の強化		3.0
		【49】 ICTの活用による学力向上に取り組みます。	4.0
		【50】 インターネット教育の推進	3.0
		【51】 郷土教育・ふるさと学習の充実に取り組みます。	3.0
		【52】 社会経済教育・職業(キャリア)教育の充実に取り組みます。	2.5
		【53】 不登校支援の充実に取り組みます。	2.5
		【54】 学校におけるいじめ問題の改善に取り組みます。	2.5
		【55】 本土遠征への支援の充実に取り組みます。	4.0
		【56】 高校の魅力向上を支援します。	2.5
	◎大人の学び直しや文化・芸術・スポーツ活動への支援強化		2.9
		【57】 学び直しや生涯学習の充実に取り組みます。	3.0
		【58】 文化・芸術活動の活性化に向けて支援を強化します。	2.5
		【59】 鹿児島国体相撲競技開催への機運づくりを強化します。	4.0
		【60】 「チャレンジスポーツ」の島づくりに取り組みます。	3.0
		【61】 スポーツ環境の整備に向けて取り組みます。	3.0
		【62】 e スポーツの振興に向けて取り組みます。	1.5
		【63】 奄美群島日本復帰運動の伝承強化に取り組みます。	3.0
	◎人口減少に歯止めをかける移住・定住支援の強化		2.2
		【64】 移住希望者に寄り添う相談窓口を設置します。	2.0
		【65】 地域の空き家を活用した移住促進策に取り組みます。	2.5
		【66】 あらゆるニーズに対応できる関係人口づくりに取り組みます。	2.0

大	中	小項目	評価
		◎これからの課題に対応できる地域づくり	2.4
		【67】 笠利・住用などにおける「地域創生戦略」づくりを進めます。	2.0
		【68】 地域おこし協力隊の導入など、外部人材を活用します。	4.0
		【69】 広域的自治組織の活用に向けて、研究を進めます。	2.0
		【70】 買い物難民対策を進めます。	2.0
		【71】 交通弱者対策を進めます。	2.0
		【72】 商店街の空き店舗対策を進めます。	2.0
		【73】 新しい発想や手法による商店街づくりに取り組みます。	3.0
		【74】 小さなコミュニケーションを生むしかけをつくりま	2.0

【活動の記録など】

IV 次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくりについては、子育て支援の面で充実できたこと、できなかったことがそれぞれありました。教育におけるICT（情報通信技術）の活用や本土遠征支援は充実できています。定住支援や地域づくりの面では地元民間や外部人材の力を活かしながら、空き家の活用や関係人口づくり、商店街活性化に向けて取り組んでいます。

大	中	小項目	評価
V 市民に身近で頼りになる基盤づくり			3.0
	◎市民・民間との「対話と連携」を進める市役所づくり		3.3
		【75】 市民との対話の場として「市民と語る会」を開催します。	4.0
		【76】 あらゆる知恵を活かし、収入増加を目指します。	4.0
		【77】 デジタル化による行政サービスの向上を目指します。	3.0
		【78】 行政職員のテレワークを推進します。	3.0
		【79】 行財政改革を推進します。	3.0
		【80】 民間との協働による公共投資を進めます。	2.0
		【81】 観光や環境対策など、広域行政を推進します。	3.0
		【82】 S D G s (持続可能な開発目標)の実践を推進します。	4.0
	◎これからの奄振活用のための議論の展開		2.6
		【83】 奄美群島振興開発特別措置法の延長・改正を死守します。	3.0
		【84】 物価高への対策としての物流費対策を研究します。	2.0
		【85】 新しい手軽な移動手段に対応した環境整備を検討します。	2.0
		【86】 グリーン社会の実現に向けた議論と実践に取り組みます。	3.0
		【87】 自然環境や景観に配慮した公共工事のあり方を研究します。	3.0
	◎政策実現の進捗の市民への公開		3.0
		【88】 マニフェスト(選挙公約)の実現進捗を公開します。	3.0

【活動の記録など】

V 市民に身近で頼りになる基盤づくりについては、「市民と市長のふれあい対話」や記者懇談会、庁内のデジタル化などに鋭意取り組み、広報・広聴力の強化や市民サービスの向上を目指しています。SDGs(持続可能な開発目標)の地域全体としての取り組み強化など、様々な官民連携事業の基盤を整えつつあり、脱炭素、公共施設整備、居住支援につなげていきます。そして、関係機関との連携を強化して、奄振の延長・拡充を目指します。